詩

笑顔を交す日のために

四山支部　堀前はるを

「お父さん」
「お母さん」
それを呼ぼうともしない唇
またたきもせず
ただ見開いたままの目
ひねくれて
骨だらけの手と足
どんなにつねって見ても
どんなにたたいて見ても
大声でその名を
どんなに呼んで見ても
なんの表情もかえずただ
一点を見つめているだけの
瞳
「なぜ笑ってくれないのだ」
「ひとことでもよいのに
なぜ
お父さん
お母さんと
呼んでくれないのだ」
なんの罪もない親と子を無残にひき裂き
こんな生き地獄のなかにたたきこんだ奴
三井独占資本
たとえ犬どもがどんなに吠えようと
坑内での保安サボを許してよいものか
再びこのような残酷なできごとを
許してよいものか
俺たちは闘うんだ
一日も早く仲間同志が笑い顔を交わしながら
明るく歩ける坑道にするために

参議院議員選挙せまる

阿具根・松本（全国区）小柳・大中（地方区）推薦

第八回参議院議員通常選挙がいよいよ近づいている。七月七日を投票日にするというから、告示はまさに六月上旬となろう。仂く者にとって、まさに重大な意義をもつ選挙である。

阿具根　登（元）

松本　英一（新）

小柳　勇（現）

大中　康雄（新）

こんどの参議院議員選挙を迎えるに当って、組合としてはすでに全国区で阿具根登（元＝五十六才）と松本英一（新＝四十六才）を、地方区で小柳勇（福岡県・現＝五十六才）と大中康雄（熊本県・新＝四十九才）—以上敬称略—の各立候補予定者を推せん決定これからその当選をめざして闘っていくことになっている。

周知のようにこんどの参議院議員選挙は、こんどこそ日米安保条約を破棄しなければならない一九七〇年（昭和四十五年）まで、国の政治をになってゆくばかりでなく、沖縄返還、アメリカのベトナム侵略停止、物価の安定、賃金の大幅引き上げ、合理化反対、さらには三池の労仂者ばかりでなく、全国の仂く者にとって重大な問題となっているCO患者・遺族を守るための諸要求の貫徹——など、当面のさしせまった問題を正しく解決しなければならないという、重大な使命がたくされている。

これに対して政府・自民党は沖縄返還を口実に、核戦力のもちこみをたくらみ、アメリカのベトナム侵略への加担を強めながら、いま一度国民を戦争の危険な道にひきずりこむことをねらい、独占資本のいっそうの成長発展のためますます国民へのあらゆる犠牲を強制し、資本の合理化攻撃をたすけるため、労仂者とその闘いへの弾圧政策を強めようとしている。そのため、労仂者の生活は日増しに苦しくなり、不安が重苦しく広がっている。

以上の事実から見て、こんどの参議院議員選挙で、社会党をはじめとする革新勢力が進出するかどうかが、労仂者ばかりでなく全国民にとってはかりしれず重大な問題となってきていることが、ハッキリしてくる。まさにこんどの参議院議員選挙は重大といわなければならず、一日も早く選挙戦にのぞむ準備にとりかかろう。

労働強化が問題になつている6トン・クレーン

ひたいに汗して仂く仲間のために死んだ仲間のために

港務支部　森一光広

もし三池新労の裏切り幹部がいなかったら、夜を撤して語り明かすこともできた仲だったろうに。

川口さんとともに機械運転係として顔を合わせ、汗を流した月日は短かかったが、その短かかった月日を思い返すことは私に苦しい。

クレーン運転の国家免許を取るとき最高の成績だった川口さん。それがクレーンの運転に着くようになったそのころより、川口さんからは以前のようなハツラツとした姿が少しずつ消えていった。

目には見えないガンという病いの敵は、その川口さんの体をしだいにむしばみながら大きくなっていった。川口さんは入院して、ガンとの闘いにそなえた。がそのときはすでに力およばず、やがて二度と帰らない人となってしまったのである。

低賃金であるが故に、病身にムチを加えながら病に倒れるまで仂いた川口さん。その川口さんに、御用幹部が牛耳る新労組が何の抵抗も示さないところから、ひときわはげしい労仂強化がのしかかっていったのである。

不当な編成替えを強制されたとき、それが必ず仂く者の健康を奪い、病人が続出するだろうことはだれの目にもわかっていた。たまりかねて係長に「これ以上病人がでると、あんたはどげんするつもりですか」とつめよると、係長はそのとき「他人のことはいいでしょうが…」と開きなおったのだったが、思えばそのとき私たちの気持のどこかに「オレたち三池労組員はたとえ差別賃金で苦しめられてはいるが、労仂強化や合理化の犠牲にはならないからいいんだ」との考えがたしかにあったように思う。そこに、こんどの川口さんの死である。私はハッとした——「組織こそ導え、お前たちはともにひたいに汗して仂く仲間を見すてるのか！」という叫び声を、耳にしかと聞いた気がしたからである。

川口さんという、一人の労仂者の生命はこうして消えた。だが川口さんはたんに、ガンという見えない病の敵との闘いに敗れただけではない。労仂強化で押しまくってくる資本の合理化攻撃の手によって、労仂者の団結が力弱いばっかりに、その中からタタキだされふくろたたきにされて死んでいった尊い犠牲者なのだ。

私たちは改めて考えよう——「この川口さんの死にこたえるために、自分たちは果して何をしなければならないのか？」を。

（港務支部荷役分会転場新聞〝スクラム〟NO六から紹介しました。なお文中にある川口さんは名前を保広さんといって、「見えないガンという病いの敵と闘いつづけ、ついに力つき、二月二十七日四十七才をもって帰らぬ人となられた」—同転場新聞の記事—のです）

〝くろだいや〟に非常な不安

▼…「好調しめす一月出炭、日産二万トン大台」。六日（二月）また新記録……〝くろだいや新聞〟を見るたびに、非常な不安を感じる。なぜなら会社の出炭増強は重労仂の強要となり、犠牲の増大となっていることを忘れてはならないから。

しかも会社は、自分がかぶるべき保安無視の責任を、仂く者に転嫁しています。こんなことをさせないためにも、断固保安を確立しましょう。（三川支部乙方転場しんぶんから）

私をすてないで

▼…私は、多くの人に愛されたい。いや、全部の人が、可愛がってほしいの。人々の目で全身を見つめられたら、喜びにふるえちゃう。うふふふ……

ディトの場所をあなたのロツカーに求めて待ってると、その場につれなくすてちゃうあなた。私はそれが悲しいの。せめて優しくだいてほしいのに。

あなたに知られてもうすぐ一年。三百回目のディトを重ねようとしている私。強く強く愛してほしい。

私はあなたの歴史なのですから。——日刊こくら

×

これは、右のマンガとともに、全通労組の小倉支部が発行する日刊転場新聞から紹介したものです。